

2021年7月13日

各位
プレスリリース

株式会社農業総合研究所

最新型の光センサー式選果機を導入 青果物の品質管理強化と国内外に向けた集出荷量を増やします

「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする」をビジョンに掲げ、全国の都市部を中心としたスーパーマーケットで「農家の直売所」を運営する株式会社農業総合研究所（本社：和歌山県和歌山市、代表取締役社長：堀内寛、以下「農総研」）は、和歌山県紀の川市の農産物集荷場「紀の川集荷場」に農総研初となる最新の選果機を導入いたしました（7月13日から稼働）。最新選果機の導入により品質管理機能の強化や新たな成長ドライバーとして位置付けている産直卸事業や輸出事業を推進してまいります。



■目的

農総研は、2021年1月に創業の地である和歌山県紀の川市の1号農産物集荷場「紀の川集荷場」（西日本最大規模）を機能拡充と集荷量増を目的に移転いたしました。今般の選果機の導入により、主に和歌山県産の柿、桃、不知火、みかん等の階級（大きさ）と等級（見た目・味）を判別することで国内外の多様化する流通や消費者ニーズに合わせた選果・選別を実現します。また、選別された青果物の搬送や梱包までの一連を情報管理することで選果作業の自動化（効率化）・省力化も狙います。和歌山県産青果物のさらなる販路拡大と産出額増加、生産者の収入源増を目指すとともに、新鮮で熟度の高い青果物を国内外の消費者にお届けします。

■選果機の概要

- ◆ 設置場所：紀の川集荷場（和歌山県紀の川市西脇 581-1）
- ◆ 選果機概要：A. 柑橘類用選果機
処理能力：5,400 個/h
規格・形式：PK 式
- B. 柿、桃、柑橘類用選果機
処理能力：3,240 個/h
規格・形式：バケット式
- ◆ 主な選果物：柿、桃、不知火、みかん等
- ◆ 初選果日：2021年7月13日（火）



■会社概要

株式会社 農業総合研究所 JPX 証券コード 3541

農総研は、「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする」をビジョンに掲げ、日本及び世界から農業が無くならない仕組みを構築することを目的とした産直流通のリーディングカンパニーです。全国約9,600名の生産者と都市部を中心とした約1,700店舗の小売店をITでダイレクトに繋ぎ、情報・物流・決済のプラットフォームを構築することにより、これまでになかった新しい農産物流通システムを展開しています。

農総研は、2021年6月に農業ベンチャー初の上場（東証マザーズ）から5年の節目を迎えました。上場5年で流通総額が約2倍、「農家の直売所」の店舗数が約2.5倍、登録生産者数が約1.7倍までに成長いたしました。産直流通のリーディングカンパニーとして、青果物流通の新しい社会インフラとして、次なる5年を見据えた積極的な事業展開と投資を実施してまいります。

以上